



流通 BMS 普及説明会Ⅱ 特集

流通 BMS 協議会 会報 (流通 BMS ニュース) No.6 をお届け致します。

2009 年 10 月～12 月、流通 BMS 普及説明会を全国主要 5 都市で開催し、総数 317 名の参加を頂きました。本会報では、前号に続き、流通 BMS 普及説明会の状況をご報告致します。

普及説明会では、「流通 BMS 最新動向と今後の普及に向けて」「中堅・中小企業の導入企業の事例」に加え、支援会員 15 社 (各会場 3 社) から「流通 BMS 導入のポイント」について実務経験に基づく具体的な説明を実施しました。

流通 BMS 協議会 HP で、普及説明会で使用した説明資料を公開しています。参照願います。

(一部、事例紹介企業のご事情により、公開を控えさせていただいています。)

流通 BMS 普及説明会のプログラムは、以下の通りです。

プログラム

	流通BMS最新動向と今後の普及に向けて	中堅・中小企業の導入事例	流通BMS導入のポイント		
札幌	イオンアイビス(株)	よつ葉乳業(株)	ウルシシステムズ(株)	(株)データ・アプリケーション	(株)HBA
名古屋	ユニー(株)	(株)種青	(株)テイルサイエンス	(株)日立製作所	エヌアイシー・インフォトレード(株)
大阪	イズミヤ(株)	生活協同組合連合会 コープきんき事業連合	ユーザックシステム(株)	(株)ワイ・ディ・シー	(株)NEC情報システムズ
広島	(株)平和堂	(株)ハローズ	(株)富士通中部システムズ	(株)インテック	(株)サンルックス
福岡	(株)ダイエー	(株)サンライフ (株)西鉄ストア	富士通エフ・アイ・ピー(株)	キヤノンITソリューションズ(株)	グローバルサイン(株)

本会報では、「中堅・中小企業の導入事例」として、コープきんき事業連合 (大阪会場)、ハローズ (広島会場)、サンライフ (福岡会場) の導入事例をご報告致します。スーパー業界代表者による「流通 BMS 最新動向と今後の普及に向けて」と流通 BMS 導入企業による「中堅・中小企業の導入事例 (札幌、名古屋)」は、会報No.5 でご確認頂けます。

3月9日 (火) ～12日 (金) 東京ビッグサイトで開催されたリテールテック JAPAN 2010 の最新情報として、流通 BMS のロゴ使用許諾を受けた企業 12 社の出展状況をご報告致します。

4月26日 (月) 東京・港区のホテルフロラシオン青山で、流通 BMS 協議会の総会を開催いたします。議案は、2009 年度事業報告、2010 年度事業計画、運営委員の選任、会則の一部改訂を予定しています。特別講演では、フューチャーアーキテクト(株) シニアフェロー (前取締役副社長) 碓井誠様の「新しい IT 活用で成長軌跡への転換を」を予定しております。

大阪会場 中堅・中小企業の導入事例 コープきんき事業連合における流通BMS導入事例

企業概要： 生活協同組合連合会 コープきんき事業連合

・設立： 2003年7月23日

・事業内容： 7つの生協を会員とする生活協同組合の事業連合法人
商品開発、共同購入、物流、システムの連携で効率化を目指す

講演者： コープきんき事業連合 事業支援本部 システム部 竹内 忠之 氏
ひとこと：

- ・現在の視点からみて、世の中一般でも流通BMS導入社数が増えており、今後導入社数や適用範囲が広がるにつれて、導入効果が拡大していく。
- ・導入社数が広がれば広がるだけ、適用範囲を広げれば広げるだけ、流通BMSの効果が拡大していくと確信している。



竹内忠之氏

I. 流通BMS導入の経過

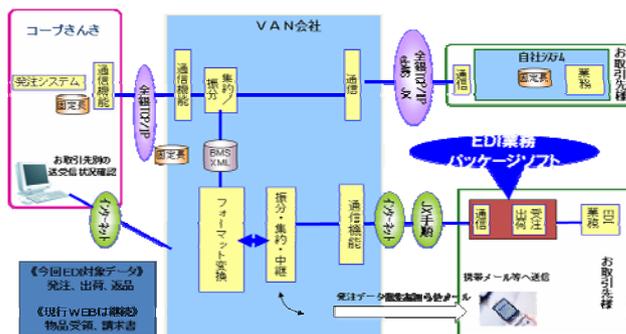
コープきんきでは、仕様書管理～商品マスタ作成、決済の一本化に取り組んでいたが、受発注・物流は各会員生協のシステムを活用していた。

問題点として、①会員生協ごとに運用ルールが異なる(同じ商品でも発注日や納品日が異なる等)、②会員生協ごとにシステムが異なる(伝票発行ルール、発注単位が異なる等)、③会員生協ごとに重複作業が発生している等の問題点があり、取引先も困っておられた。これらを解決するため流通BMSを導入することになった。

流通BMS導入の基本スタンスとしては、①コストは会員生協側の改造を含め、最小とする、②将来の拡張性を確保する、③標準ルールを採用する、④運用負荷を最小にする、等について話し合い、確認した。手段として①流通BMSの採用、②GLN・GTIN利用、③VAN・ASP型モデル活用、を進めることにした。(②は項目には入れたが今回採用は見送り。内部商品コード採用)

II. 導入システムの概要

導入システムの概要は以下の通りである。VAN・ASP会社を利用し手順等サービスを拡充した。また導入しやすくするため、JX手順等推奨パッケージを取引先に紹介している。



III. 導入作業と課題

- ① 導入手順、期間：導入ステップは次のとおりである。導入検討、システム形態選定、システム構築、接続テスト、移行、本番と並行して、取引先へのサービス内容検討、取引先説明会、移行、各種調整を行い、スムーズな移行を目指した。説明会では稼働スケジュール、運用ルール、契約関係を説明し、マッピングシートを配布し、後日質問を受ける形で導入を進めた。取引先からの問い合わせ内容は、マッピング、契約関係、コード関係などが多かった。



- ② 導入期間：標準化ガイドライン資料では6～7ヵ月だが、当社でもマッピング配布から5ヵ月程度で導入できた。
- ③ 取引先アンケート：導入前の取引先への発注方法は、FAX発注のみが36%、オンライン発注のみは12%に過ぎなかった。取引先にアンケートをとったところ、流通BMS導入済は、10%であった。インターネット環境は99%が導入していた。導入にあたって取引先には「新しい発注方式が今後こうなる」と説明し、流通BMSをあまり意識しなくてもよいように説明した。
- ④ 導入手順の統一：通信手順については、流通BMS対応手順と全銀TCP/IPを利用可能としている。JX手順ソフトの販売及びレンタルも行って取引先が導入しやすくした。
- ⑤ 導入範囲：取扱商品が無店舗の食品であり、伝票枚数が少ないというデータ特性を踏まえて判断。流通BMSでは発注、出荷、返品のみでスタートした。受領、請求、支払データは従来のWeb系ASPサービスを利用している。
- ⑥ マッピング時に留意した点：店舗用語をそのまま活用している。コードリストも追加せず、標準のままで利用。将来店舗で利用する予定。全銀用フォーマットも「きんき」⇒「VAN会社」の1パターンのみとした。取引付属番号、及び取引明細付属番号に、取引番号、取引明細番号をセットしている。
- ⑦ 流通BMSを身近に感じていただく工夫：説明会では、取引先向けアンケート結果の報告やBMS導入のメリットを報告した。またソフトウェア等操作説明会も別途実施し、BMSを身近に感じて頂く工夫をした。
- ⑧ 本番開始前、開始後に発生した問題：コード体系、マッピング等問合せあり。開始後、二重送信等が発生したが、それぞれ対応し収束した。

IV. 効果と今後の課題

- ① 投資対効果： 通信費用、ハード・ソフト費用、設計・工数、保守費用、伝票レス、物流効率等の面でそれぞれ効果が出ている。既存回線の利用やVAN利用、手順の統一が効果を後押ししている。特に、個別プログラムの削減、取引先追加時の負担軽減、伝票レス等で大きな効果が現れたと考えている。
- ② 今後の課題： 運用の安定化があげられる。そのために取引先の業務改善支援、仕入れ照合簡素化、出荷送信忘れ等対応していきたい。
次年度に向け、メッセージ種の拡大を検討している。集計表、受領訂正や発注予定等。適用範囲も拡大し、現在無店舗食品分だけだが今後有店舗分等についても導入を広げていきたい。

V. まとめ

現在の視点からみて、世の中一般でも流通BMS導入社数が増えており、今後導入社数や適用範囲が広がるにつれて、導入効果が拡大していくと考える。当社も適用範囲を広げる等、今後も積極的に流通BMSの活用を進めていきたい。導入社数が広がれば広がるだけ、適用範囲を広げれば広がるだけ、流通BMSの効果が拡大していくと確信している。

広島会場 中堅・中小企業の導入事例 (株)ハローズにおける流通BMS導入事例

～業務のスピードアップと工数削減～

企業概要

- ・創業 : 1958年10月
- ・事業内容: 食品スーパーマーケット
- ・資本金 : 11億6762万円
- ・売上高 : 630億円(2009年2月期)
- ・店舗数 : 44店舗(広島県19店舗、岡山県22店舗、香川県3店舗)



前田秀正氏

講演者名

- ・取締役経営企画部長 前田秀正氏

ひとこと

- ・直接効果だけではなく、副次的な効果もある
- ・取引先との協業手段の一つとして流通BMSは必須

I. 沿革 (システム面を中心に)

- ・1990年 EOS、POSシステム導入
- ・1994年 24時間営業開始
- ・1996年 システム入替、社内オープンシステム導入
- ・2001年 本部移転、物流センター稼働(青果物流、チルド物流)
- ・2002年 JASDAQ市場に株式を上場
- ・2003年 ドライ共配センター稼働

II. ハローズが抱えていたシステム上の課題

1. 手書伝票入力

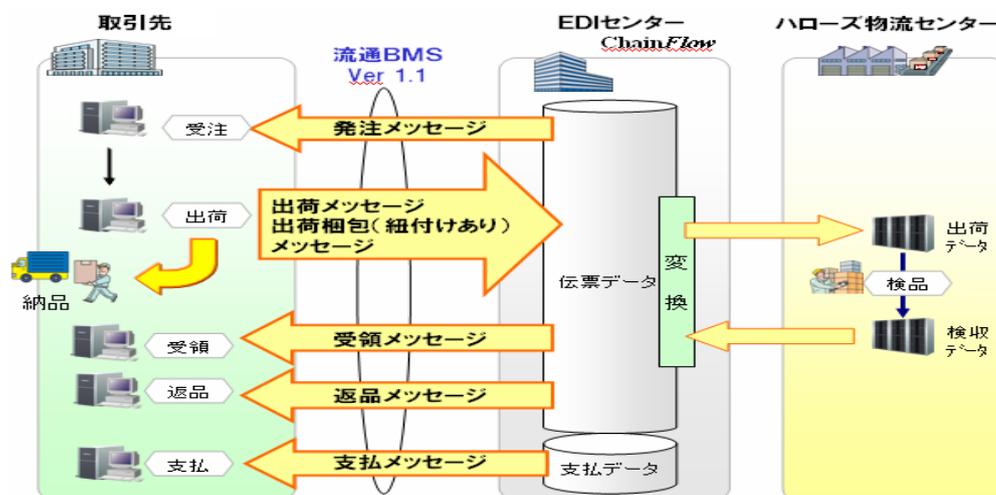
手書伝票が多く、入力業務の負荷が高い。パンチャーが7~8名で処理していた。

2. データ伝送時間

店舗数の増加に伴いデータ伝送時間が1時間を超え、ピッキング処理に支障が出始めていた。

3. 照合業務

月末の請求と支払の照合業務に10日程度の工数がかかっていた。



－ 対応メッセージとシステムイメージ －

Ⅲ. 流通BMS導入までの作業と苦労した点

システム要件を確定するのに約半年。社内説明会(特に店舗を重点的に)を12回実施。取引先への導入説明会及び操作説明会を4日間にわたり計12回実施した。店舗への説明と、特に取引先への操作説明には苦労した。取引先の担当者にはPCの操作に不慣れな方も大勢いたため、なかなかご理解いただけなかった。その後、約2ヵ月間のテストを経て稼動にこぎつけた。

導入当初一日に数十件の問合せがあったが、インストールからフォーマット変換までをセットにして導入サポートすることで対応した。出荷梱包(紐付けあり)メッセージは、物流センターの業務効率化に貢献するメッセージとして対応することにしたが、センターでの本番同様のきめ細かいテストが必要であった。ITベンダーの協力が不可欠である。

Ⅳ. 流通BMS導入状況

2009年2月から稼動させ、2010年1月にJCA手順対応をなくすために残り4社とテストに入っている。現在、Web-EDI:210社、流通BMS:80社(うちJX手順:45社、eBXML手順:35社)、固定長ファイル:30社となっている。当初予想した以上に流通BMSで対応してくれる取引先が多く、流通BMSの浸透を実感している。

Ⅴ. 導入効果と今後の目標

1. 伝票レスの実現

伝票枚数約30万枚/月のうち、手書伝票が約12万枚/月あったが、約1万枚/月(約3%)にまで削減された。これにより経理業務の省力化を実現出来た。今後、手書伝票が全伝票枚数の1%未満になるよう進めたい。

2. 月次決算の早期化

月次決算に10日ほどかかっていたが、7日に短縮。請求レスによる照合作業軽減により月次決算の早期化を実現出来た。さらに2日削減し、5日以内を目標としたい。

3. データ連携時間の短縮

インターネット利用により、従来のJCA手順と比較して20分の1の時間で送受信が可能となり、送受信時間が大幅に削減された。

4. その他

副次的効果として、伝票入力時間が短縮されたことによって生まれたパンチャーの余剰時間を経理事務へ割り振ることで、経理部門がJSOX法対応に時間を割くことが出来るようになった。

Ⅵ. まとめ

来年の岡山新DCセンターの稼動による物流体制の整備に合わせ、預り在庫の発注メッセージ送受信のテストに入っている。取引先とのデータ交換率を高めることで、双方の業務改善につながる。取引先との協業手段のひとつとして、流通BMSは必須である。

以上

福岡会場 中堅・中小企業の導入事例 (株)サンライフにおける流通BMS導入事例

企業概要

- ・設立：1969年9月13日
- ・事業内容：食品スーパーマーケット
- ・従業員数：400名〔うち正社員57名〕（2009年度）
- ・売上高：53億円（2009年度）

講演者：(株)サンライフ 取締役営業部長 麻生 良明 氏

ひとこと

- ・流通BMS導入により改善された内容
 1. EOS化率のUPによる効率化
 2. 店舗オペレーションの改善
 3. お取引先様の負担軽減



麻生良明氏

I. 流通BMS導入の経緯と目的

当社は、大分県大分市を中心に4店舗展開する食品小売業であり、CGCグループに加盟している。

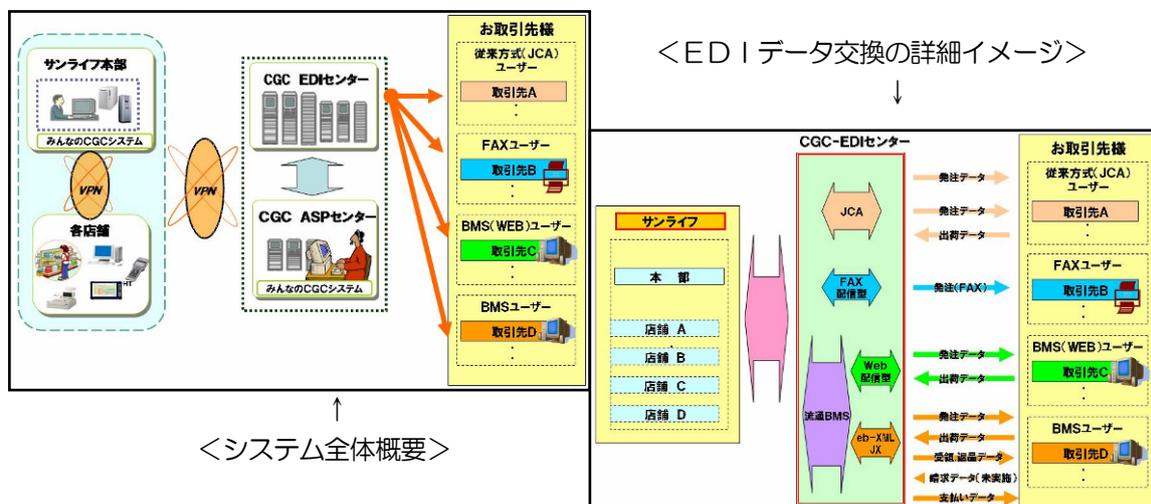
流通BMS導入の経緯としては、2006年10月、当時の自社本部システムにて、従来のJCA方式より、Web-EDIへの変更を行なったが、2008年10月の自社本部システムのリブレース時期に合わせて、ASP利用型の「みんなのCGCシステム」を導入した。これによって、自社管理型のシステム運用を廃止することになった。また、これに合わせて、従来のEDI方式を、流通BMS (Ver1.0) に切り替え、稼動を開始した。

流通BMSの導入目的は、以下の5点にまとめられる。

- ① 伝票レス⇒電子化保存（電子帳簿保存申請）
（仕入伝票の7年間保管⇒膨大な伝票量と保管スペースの確保が必要であった）
- ② 商品登録の簡素化⇒時間短縮
- ③ 買掛処理、決済業務のペーパーレス化
- ④ 流通BMS導入によるお取引先様の負担軽減と効率化
- ⑤ 最終目的は人件費の削減

II. 流通BMS導入の状況

システムの全体概要および、EDIデータ交換の詳細イメージは、以下の通りである。



Ⅲ. 流通BMS導入により改善された内容

1. EOS化率のUPによる効率化

- 1) EDIの手段が「流通BMS」「流通BMS (Web)」「JCA手順」「自動FAX」など取引先の状況に応じての対応が可能となった。
- 2) EOS比率65%→95%以上へ
 - ①当時23社とのEOSを38社との取組みへ
⇒ EOS化率88% (2009年8月時点仕入金額ベースにて)
 - ②チラシ商品、スポット商品などのEDI化が拡大 ⇒ 進捗率70%
⇒ 定番の取引先と違う取引先へも特売、スポットともEOS発注が可能に
 - ③EOSの取引先へのFAX発注禁止
⇒ EOSでの発注比率98% (2009年8月時点発注件数ベースにて)

2. 店舗オペレーションの改善

- 1) 「EDI化」＝「単品管理」＝「データ処理」への意識向上
 - ・ FAX発注禁止による手書き仕入伝票の計上業務軽減
 - ・ 移動伝票、廃棄、値下伝票、返品伝票のハンディによる単品処理化
 - ・ 酒税報告書の電子化、日報などの手書処理廃止
 - ・ EOS発注の発注精度向上⇒チャンスロス改善
 - ・ 単品レベルでの粗利管理 (仕入計上の精度向上による効果)
- 2) ルート業者との業務改善
 - ・ アイス、冷凍食品は売場で納品された商品をハンディにて入力し、仕入伝票発行しているが、その結果として受領データを取引先へ送信できるため、ミスが激減。
- 3) 作業生産性への取組み
 - ・ パートシフトと作業生産性への取組み
 - ・ フロアレイアウト単位での納品可能性

3. 取引先の負担軽減

- 1) 今までのEDIシステムは標準タイプではなかった
 - ・ 各取引先の開発費 (30万) 前後+月間システム使用料 (1.5万円) 位必要
- 2) 流通BMSの導入により
 - ・ 業界標準のため、各小売業ごとの開発費用が1回で済む
 - ・ 流通BMS使用料としての位置付け的な費用が発生しない
- 3) お取引先様も全て伝票レス
 - ・ 納品時はA4カット紙 (納品明細書) を発行頂き、商品添付納品 (伝票代の軽減)
- 4) 仕入確定 (受領データ) の電子化により未払いなどの違算発生がなくなる

Ⅳ. 今後の課題について

1. 発注の効率化は出来たがEDI比率が従来より低下
JCA方式から旧EDI方式に切替時、取引先に開発費用 (30万程度) をお願いして開発。2年で流通BMSに乗り換えたために、流通BMS環境を保有していない取引先は初期投資が必要だった
2. 生鮮のEDI化
旧EDIでは野菜、果実の取引先もEDIにて対応頂いていたが、上記の理由で見送り
⇒今後拡大へ
3. グロサリー、日配部門の自動発注化への研究
特売が多い中で、自動発注が可能かの模索、検討 ⇒ 近い将来スタートしたい

コーヒーブレイク

～ 「マッピングシート」ってなあに？ ～

既存手順のフォーマットと流通 BMS の新フォーマットとの対応付けを確認するシートをマッピングシートと呼んでいます。



Q1：いつ使うの？

A1：流通 BMS の導入を決定し、相対先との間において EDI 取引に関する取り決めを行い、EDI システムの設定に必要な業務と IT パラメータの調整を行います。
このとき活躍するのが、マッピングシートなのです。

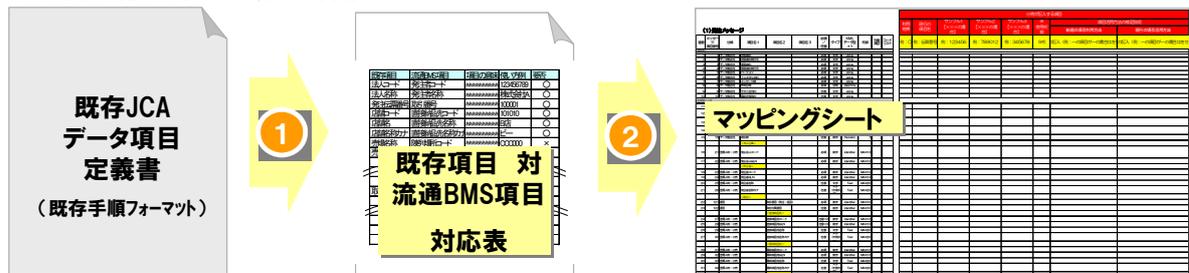
Q2：誰が使うの？ 何のために必要なの？

A2：小売業とその取引先との間で業務的な取り決め事項を調整するためです。

Q3：どんなシートなの？ どんな作業なの？

A3：下図で、作成の流れとマッピングシートのイメージをつかんでください。作業内容は、各番号の説明で確認してください。

<<マッピングシート作成の流れ>>



1 既存手順の項目定義書を基に、流通 BMS 項目との対応付けを行います。
既存手順の項目名称を意識せず、項目の意味や使い方が同じものを対応付けます。流通 BMS 導入で、新たに利用する/今後利用しない項目が出る可能性があります。その利用有無を明確にします。

2 **1** で作成した対応表からマッピングシートを作成します。
業務プロセスの見直しや自社利用方法の見直しを行い、流通 BMS のルールに沿った使い方をしてください。

3 マッピングシートは最新版を利用してください。
メッセージバージョンの変更に伴い、マッピングシートも変更されます。
マッピングシートは

http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/standard/standard01_2.html
からダウンロードすることができます。

マッピングシートで、既存手順フォーマットと流通 BMS フォーマットをどのように対応付けるか、その取り決めを行っています。

<<ご参考です。マッピングとは、対応付けなどの意味を持っています。>>

マッピングの意味は、ある集合の構成要素と、別の集合の構成要素を規則に従って機械的に対応付けたり割り当てたりすることです。

ここでは、既存手順項目と流通 BMS 項目との対応付けを言っています。

リテールテック JAPAN2010 流通 BMS ロゴ使用許諾 支援会員出展状況
 2010年3月9日(火)~12日(金) 東京ビッグサイトで リテールテック JAPAN 2010 が開催
 されました。流通 BMS のロゴ使用許諾を受けた企業 12 社の出展状況を報告します。(企業名50音順)

流通システム開発センター

流通 BMS 最前線レポート

~流通業の未来を左右する経営戦略を探る~

流通 BMS 導入効果、流通 BMS 協議会紹介



1) インターコム

【製品・サービス名】

- ・ Biware EDI Assist、・ Biware JX クライアント
- ・ Biware JX クライアント流通 EDI、・ EOS らくらく受発注

【連絡先】

〒110-8654

東京都台東区台東 1-3-5 TEL:03(3839)6240

<http://www.intercom.co.jp/>



2) NEC 情報システムズ

【製品・サービス名】

- ・ EDIAI Server
- B2B EDI/EAI 統合ミドルウェア

【連絡先】

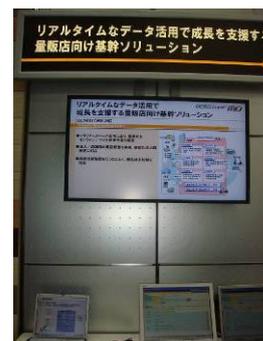
〒105-0014

東京都港区芝3丁目8-2

TEL:03(5440)1016 FAX:03(5440)1049

<http://www.nec-nis.co.jp/>

カタログにロゴ掲載あり



3) キヤノンITソリューションズ

【製品・サービス名】

- ・ Collaboliink series
- 流通 BMS 対応 EDI システム

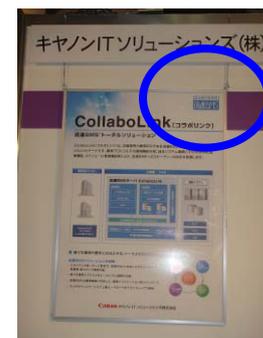
【連絡先】

〒108-0073

東京都港区三田 3-11-28

TEL:03(5730)7242 FAX:03(5730)7219

<http://www.cannon-its.co.jp/edi/>



4) サイバーリンクス

【製品・サービス名】

- ・EDI-ASP
- ・@arms ERP システム～SaaS サービス～

【連絡先】

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田 3-30-16
TEL:03(5285)3711 FAX:03(5155)5477
<http://www.cyber-l.co.jp/>



5) データ・アプリケーション

【製品・サービス名】

- ・ACMS E²X
- ・ACMS B2B
- ・ACMS Lite Neo

【連絡先】

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町 1-3-6
TEL:03(5640)8544 FAX:03(5640)8541
<http://www.dal.co.jp/>



6) 東芝テック

【製品・サービス名】

- ・ES-1 流通 BMS 対応 EDI システム

【連絡先】

〒141-8664
東京都品川区東五反田 2-17-2
TEL:03(6422)7500
<http://www.tec.jp/>



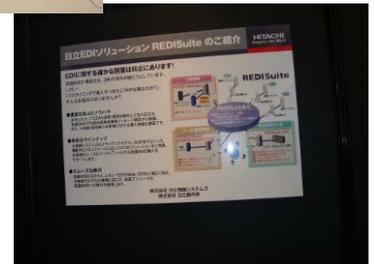
7) 日立製作所/日立情報システムズ

【製品・サービス名】

- ・HITREDI/Manager
- ・HITREDI/Server
- ・HITREDI for クライアント
- ・REDISuite 流通 EDI センターサービス

【連絡先】 TEL:03(5471)3287 <http://www.hitachi.co.jp/retail/>

カタログにロゴ掲載あり



8) ビット・エイ

【製品・サービス名】

- ・e-NetBMS Total Pack
- ・e-NetBMS Simple Pack

【連絡先】 〒101-0021

東京都千代田区外神田 4-14-1
TEL:03(6811)7727 FAX:03(6811)7728



9) 富士ソフト

【製品・サービス名】

- ・富士ソフト流通 BMS ソリューション

【連絡先】

〒101-0022

東京都千代田区神田練堀町3

TEL:03(5209)5773 FAX:03(5209)5829

<http://www.fsi.co.jp/>



10) 富士通中部システムズ

【製品・サービス名】

- ・Chain Flow

統合EDIソリューション

【連絡先】

〒460-0003

名古屋市中区錦2-9-29

TEL:050(3016)6122 FAX:052(201)7952

<http://jp.fujitsu.com/fjcl/services/chainflow/>



11) 富士通エフ・アイ・ピー

【製品・サービス名】

- ・TradeFront/AE

- ・iTERAN/AE、・SpeedkitLite

【連絡先】

〒135-8686

東京都江東区青海2-45

TEL:03(5531)1595 <http://jp.fujitsu.com/fip/>

カタログにロゴ掲載あり



12) リテールサイエンス

【製品・サービス名】

- ・WinWin-EDI

取引先業務支援パッケージ

【連絡先】

〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町4-24

TEL:03(3477)2280 FAX:03(3477)2742

<http://www.rtsc.co.jp/>



～流通システム開発センターからのお知らせ～



JAN シンボルのサイズ と GS1 に関する情報提供です。

1. 海外で販売する商品の JAN シンボルの高さについて

最近、オーストラリアやニュージーランドへ輸出した商品の「JAN シンボルの高さ」に起因する読み取り問題が発生しています。

国際標準では、JAN シンボルの基本寸法は幅 37.29mm、高さ 25.93mm (図 1) と決められています。また、基本寸法の 0.8 倍 (図 2) から 2.0 倍まで縮小拡大することができます。特に、海外へ輸出する際は、必ずこの国際標準の寸法を守ってください。

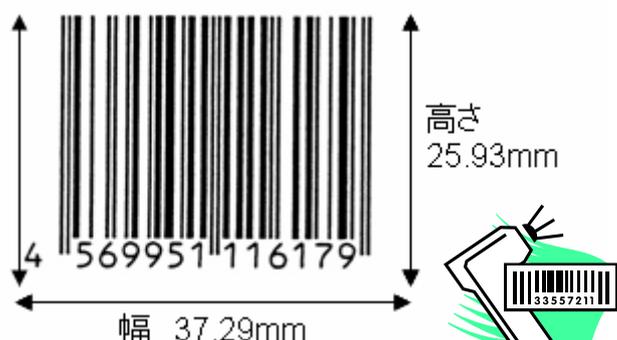


図 1 JAN シンボル (基本寸法)



図 2 JAN シンボル (0.8 倍)

JAN シンボルの詳細は http://www.dsri.jp/jan/order_02.htm#jan5 をご覧ください。

お問合せは、流通コードサービス部 (03-5414-8511) まで

2. GS1 に関する情報提供を開始



2 月から流開センターのホームページで、GS1 の活動に関する情報提供を始めました。GS1 本部からのニュースレターや、GS1 の標準化活動の仕組みである GSMP (Global Standard Management Process) などについて紹介しています。 <http://www.dsri.jp/center/gs1info.htm>

GS1 (旧国際 EAN 協会) は、1977 年、ヨーロッパ 12 カ国の流通標準化組織によって設立され、流開センターは 1978 年に加盟しました。

GS1 は、サプライチェーンの効率化・可視化に寄与する、国や業界を超えた「国際標準」を策定しています。流通 BMS の策定が、ユーザー企業主導で行われているのと同様、GS1 の活動には GS1 加盟組織の職員だけでなく、ユーザー企業が重要な役割を果たしています。

具体的には、GTIN を始めとする流通業界で使用される各種の識別コードや、それらコードの入力を省力化するデータキャリア (バーコードや電子タグ) の仕様や利用方法の標準化、EDI メッセージの策定などを行っています。GS1 に関する情報は、 <http://www.gs1.org/> をご覧ください。

お問合せは、国際部 GS1 グループ (03-5414-8520) まで

協議会会員一覧

1. 正会員入会状況（2010年2月25日現在。47団体）（団体名50音順）

1. 正会員入会状況（2010年2月25日現在。47団体）（団体名50音順）

(財)家電製品協会	全日本履物団体協議会	日本石鹼洗剤工業会
酒類加工食品企業間情報システム研究会	全日本婦人子供服工業組合連合会	(社)日本セルフ・サービス協会
情報志向型卸売業研究会	(社)全日本文具協会	(社)日本専門店協会
食肉流通標準化システム協議会	(社)大日本水産会	日本チェーンストア協会
(財)食品産業センター	(社)日本アパレル産業協会	日本チェーン・ドラッグストア協会
(財)食品流通構造改善促進機構	(社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会	(社)日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会
(財)生活用品振興センター	(社)日本衛生材料工業連合会	日本歯磨工業会
全国医薬品小売商業組合連合会	日本OTC医薬品協会	日本ハム・ソーセージ工業協同組合
全国卸売酒販組合中央会	(社)日本加工食品卸協会	日本百貨店協会
全国菓子卸商業組合連合会	(社)日本玩具協会	(社)日本フードサービス協会
全国化粧品日用品卸連合会	日本化粧品工業連合会	日本文紙事務器卸団体連合会
全国青果卸売協同組合連合会	日本GCI推進協議会	(社)日本ボランティア・チェーン協会
(社)全国中央市場水産卸協会	一般社団法人 日本出版インフラセンター	(社)日本レコード協会
(社)全国中央市場青果卸売協会	日本スーパーマーケット協会	(社)日本ロジスティクスシステム協会
(社)全日本医薬品登録販売者協会	(社)日本スポーツ用品工業協会	協同組合 ハウネット
全日本菓子協会	日本生活協同組合連合会	

2. 支援会員入会状況（2010年2月25日現在。125社）（社名50音順）

(株)アイシーエス	オフィスナヤマ	(株)データ・アプリケーション	富士ゼロックス(株)
(株)アイティフォー	カストプラス(株)	テクトラシステム	富士ソフト(株)
(株)ITビジュアルリー	カンダホールディングス(株)	(株)デジタルコンセプト	富士通(株)
(株)アイネット	キヤノンITソリューションズ(株)	(株)デジタルデザイン	富士通エフ・アイ・ビー(株)
(株)アグリコミュニケーションズ	(株)クライム	鉄道情報システム(株)	(株)富士通システムソリューションズ
(株)あじよ	K・ビジネスサポート(株)	(株)寺岡システム	(株)富士通総研
(株)アスコット	(株)コスモコンピュータシステムズ	(株)寺岡精工	(株)富士通中部システムズ
(株)イーウエーヴ	小林クリエイティブ(株)	東芝テック(株)	フューチャーアーキテクト(株)
イーサポートリンク(株)	(株)コムアソート	西日本オフィスメーション(株)	(株)プラス
(株)イーネット	(株)サイバーリンクス	日経メディアマーケティング(株)	(株)プラネット
(株)インダ	(株)さくらケースエス	(株)ニッセイコム	(株)フリーポート
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	(株)サトー	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)ハリオス
(株)インターコム	(株)サンレックス	日本アドバンストリーダースソフトウェア(株)	北陸コンピュータサービス(株)
(株)インテージ	(株)CSKシステムズ	日本経済新聞社	ホンダロジコム(株)
(株)インテック	GMOグローバルサイン(株)	日本事務器(株)	ミツイワ(株)
(株)インフォーマット	(株)ジェイ・エス・エス	日本情報通信(株)	三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)
(株)インフォメーション・ロセンクリサーチ	(株)JSOL	日本電気(株)	三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
ヴァンキュラム ジャパン(株)	(株)システム・トラスト	日本ヒューレット・パッカード(株)	ユーザックシステム(株)
ウルシステムズ(株)	シャープシステムプロダクト(株)	日本ペリサイン(株)	(株)U-Think
(株)エイ・アイ・エス	(株)ジャパンインフォレックス	日本ユニシス(株)	(株)ユーフィット
(株)HBA	SOOP(株)	日本ラッド(株)	(株)ユニックス
(株)エス・エフ・アイ	住商情報システム(株)	(株)ニュートラル	ユニバーサルフード(株)
(株)SJC	住友セメントシステム開発(株)	(株)ネクステージコンサルティング	(株)ライトウェーブコンサルティング
(株)S-Parts	セイコープレジジョン(株)	(株)野村総合研究所	ライトシステムコンサルタント(株)
エヌアイシー・インフォトレード(株)	創玄塾	パワー・ワークス(株)	(株)ラック
(株)NEC情報システムズ	ソラン(株)	(株)日立情報システムズ	(株)リテイルサイエンス
NECパーソナルプロダクツ(株)	大興電子通信(株)	(株)日立製作所	(株)リンネット
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	(株)大洋システムテクノロジー	日立ビジネスソリューション(株)	ロジ共同促進(株)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	(株)外ラー	(株)ビット・エイ	(株)ワイ・ディ・シー
大阪市中央卸売市場	TIS(株)	(株)ひむか流通ネットワーク	
大阪商工会議所	(株)DTS	(株)ファイネット	
沖縄流通VAN(株)	(株)TKC	(株)フィンチジャパン	

<編集後記>

流通BMSニュース No.6いかがでしたか？

今回は、全国各地（札幌、名古屋、大阪、広島、福岡）の『流通BMS普及説明会』を特集し、導入事例をまとめました。

流通BMSのロゴ使用許諾を受けた企業12社のリテールテックの出展状況を報告しました。



2月から、新しい流通EDI入門講座、流通BMS講座を開設しました。

①流通EDI入門講座

これから流通業のシステムを担当される方、初心者の方に、流通業の特徴、流通業のシステム標準の歴史を分かり易く説明。

②流通BMS講座（導入編）

流通BMS導入時の検討項目、自社業務運用と流通BMSの項目との関連を説明。

③流通BMS講座（システム設計編）

流通BMSの導入、環境設定を自ら行う方に演習・理解度確認を通して実践的に説明。

各講座を下記スケジュールで開催しています。（参加費無料）

①流通EDI入門講座：2月25日（済）、4月22日、5月13日

②流通BMS講座（導入編）：3月19日（済）、5月20日

③流通BMS講座（システム設計編）：3月25日（済）、6月17日

2月度、3月度の講座は、一部受講申込者多数のため、講座開始前に申込み締め切りを行いました。流通BMS協議会HPから、早めの受講申込みをお願いいたします。

（や）

発行：2010年3月30日 発行

発行人：流通システム標準普及推進協議会（流通BMS協議会）

住所：〒107-0052

東京都港区赤坂7-3-37 プラス・カナダ3階（財）流通システム開発センター内

Tel：03-5414-8505 Fax：03-5414-8513

E-mail：ryutsu-bms@dsri.jp

URL：http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/